語学教育研究論叢第20号

移動を表す動補連語“走回来”について

高橋　弥守彦

A Study of the Verb-Complement Form *"Zouhuilai"*

TAKAHASHI Yasuhiko

〈内容提要〉

本文认为组成表示移动的“走回来”结构的“走, 回, 来”是三种不同性质的动词。它们分别为表示动作样态的样态动词“走”、位置移动动词“回”和趋向动词“来”。本文通过举例分析，从词汇意义及结构两方面阐明了这三类动词间的关系以及若干相关的问题。

“走回来”结构主要用于以下五类句中：

（7）团长掏出枪来，从后面，一枪就把他打下来了。　(12-2-100)

（9）大家尽量装出一派嘻皮笑脸的样子，搬了起来。　(6-3-97)

(20) 妻出于护士职业的敏感，翻身起来。　(5-11-96)

(39) 三郎的眼睛一动也不敢动，只见从放蚯蚓的小盆子里跳出来一个小姑娘，眨眼之间变成了一个大姑娘。　(14-431)

(40) 可是，有人匿名控告李厂长，联合专案组却飞快地杀进厂来。(3-11-86)

本文从词汇意义和结构两个方面，举例论述了补语与宾语之差异。对由样态动词、位置移动动词和趋向动词三个部分构成的，主要用于上述例句中的五种结构及其相异之处逐一进行了分析和说明。

虽然笔者也赞同“走回来”的“回来”是补语这一普遍说法。但据笔者分析，“走回来”的“回来”是动作从开始到结束的动作内部意义的范畴之一，是由单词的词义来表示的。至于补语与宾语之差异，笔者认为，补语是补充说明动词，表示动作内部的意义范畴；而宾语则表示动作所涉及的事项。因此，补语与宾语属于两个完全不同的范畴。“走回来”与“了”，有两种组合的可能，“走回来了”和“走了回来”。后者在文章中占绝大多数。这两种组合意义基本相同，但结构和出现顺序不同。前者属于“动补短语＋了”结构，而后者则是“动词＋了＋动补短语”结构。在文章中，一般前者先出现，后者后出现。另外，“走回来”与处所宾语，也有两种组合方法，“走路回来”和“走回宿舍来”。前者属于“动词＋宾语＋动补短语”结构，而后者则是“动补短语＋宾语＋动词”结构。两者都不属于“动词＋趋向补语”结构。

迄今为止，一般认为“动词＋复合趋向补语”与处所词语以外的宾语组合时，有两种可能，比如说“递过几个苹果来”和“递过来几个苹果”，但其结构却不同。前者属于“动补短语＋宾语＋动词”，即与跟处所宾语组合时的情况相同；而后者则是“动词＋复合趋向补语＋宾语”。前者在文章中的使用率极高。本文通过结构分析证实其结构为“动补短语＋宾语＋动词”，而不是一般所认为的复合趋向补语。

〈キーワード〉
移動動詞、動作内部の意味カテゴリー、出来事、事柄

目　次

０．はじめに
１．“走回来”の“回来”について
２．“走回来了”と“走了回来”について
３．“走路回来”について
４．“走回宿舍来了”について
５．おわりに

0．はじめに

移動体の移動を表す“走回来”は　一般に“走”が動詞で、“回来”が補語だと言われている[1)]。筆者もこの説を支持する。筆者は移動体の移動を表す“走回来”を分析するさい、移動を表す動詞として、それぞれの表す意味特徴から、“走回来”を次の３類に分ける[2)]。

［表１］

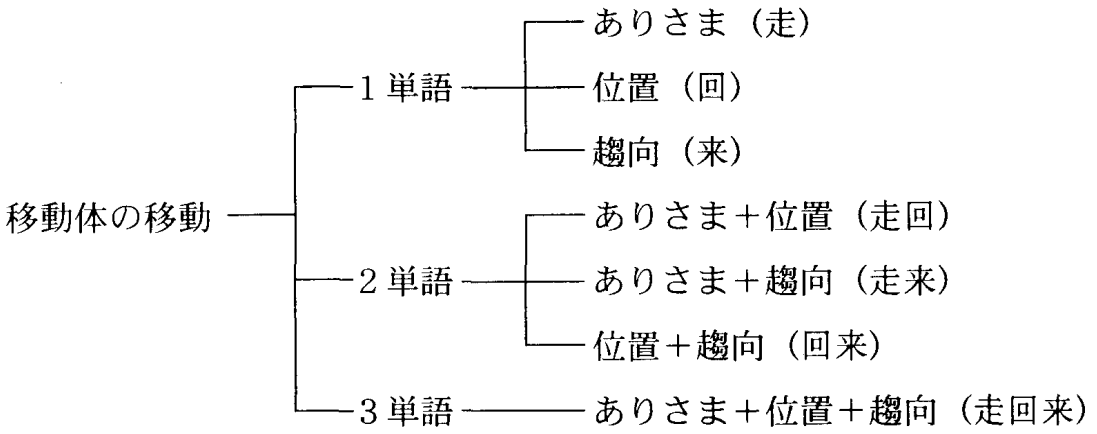
移動動詞
- ありさま移動動詞（走、跑、爬……）
- 位置移動動詞（进、出、上、下、回、起……）
- 趨向移動動詞（来、去）

“走、跑、爬”などは、その表すありさま（動作）によって、移動体[3)]の移動を表す。“进、出、回”なども移動体の移動を表せるが、移動体の位置の移動を表すだけであり[4)]、動作や行為のありさまによって移動を表しているのではない。また、“来、去”も話し手の視点によって移動体の移動を表している。３類の移動動詞はそれぞれ機能が異なることにより、“走回来”のように３類の移動動詞を連用して用いることができ、移動体の移動を表す[5)]。なお、３類のうちありさま動詞だけは次の例文中のありさま動詞“找”のように移動を表さなくても、他の移動動詞の表す意味によって移動体の移動を表すことができる。しかし、移動を表せないありさま動詞“找”は、単独では移動を表せず、“找钱包”のように客語と共に用いられても事柄を表すだけであり、移動を表せるわけではない。それとは別に、移動を表すありさま動詞“走”は単独でも移動を表せるが、“走马路”のように客語と共に用いられても移動を表せる。このようなありさま動詞を本稿ではありさま移動動詞と名付けている。

（１）妈妈，猫已经找回来了，您怎么还哭啊？　　(4-8-100)

移動を表すこの３類の移動動詞およびそれらの組み合わせによって作る次の７類はいずれも移動体の移動を表せる[6)]。

［表２］



本稿では〔表２〕のうちの３単語で表す移動について述べ、必要に応じて、その他の移動を表す１単語と２単語による移動についても分析する。なお、本稿では次の点を明らかにする。

ⅰ．“走回来”の“回来”について

ⅱ．“走回来了”と“走了回来”について

ⅲ．“走路回来”について

ⅳ．“走回宿舎来了”について

１．“走回来”の“回来”について

先行研究による補語についての説明は色々あるが、先行研究の中でも最も受け入れられ易い説の１つとして、房玉清氏の次の説明が挙げられる[7]。

> 补语是动词或形容词后头的补充说明成分……补语的作用在于补充说明动作的结果、程度和情态、以及性状的程度或状态。

“走回来”の“回来”は一般的に結果補語・程度補語・数量補語・可能補語と共に補語の中に分類され、趨向補語と言われている[8]。趨向補語の説明ではやはり房氏の次の説明が多くの研究者に最も受け入れられやすい説の１つであろう[9]。

由趋向词充任的补语叫趋向补语。趋向词可以分为三类：

i．来　去

ii．上　下　进　出　回　过　开　起

iii．由ii类趋向词和i类趋向词组成复合趋向词。

これらの補語のうち、房氏は氏の説に従い、数量連語を補語からはずし、客語の中に入れている。筆者が数量補語を補語として扱うか客語として扱うかは後述する。ここでは房氏の説を紹介する[10)]。

从形式上来看，补语和宾语都放在动词后头，但它们有根本的区别：体词和体词性短语不能充任补语，只有谓词和谓词性短语才能充任补语。所以，凡是动词后头的体词和体词性短语，我们一律看成宾语。例如：

（A）写小说　看书　拿笔　喊一声

（B）写活　看清楚　拿来　喊不动

以上同一个动词，A类带的是宾语，B类带的是补语。

房氏の説に従えば、補語は動詞や形容詞の後に用いられ、動詞や形容詞を補充説明する後続成分であり、趨向補語は趨向動詞によって動詞や形容詞を補充説明する動詞ということになる。この説に従い“走回来”を分析すると、“走”が動詞であり、“回来”が複合趨向動詞で、複合趨向動詞“回来”が動詞“走”を補充説明するということになる。しかし、“回来”がどのように動詞“走”を補充説明するのか、また、なぜそれを補語というのか、筆者には若干理解しかねる点がある。筆者は“回来”が“走”の補語であるという説には同意するが、趨向動詞が動詞を補充説明しているので補語とするという房氏をはじめとするこれまでの説明にはいささか同意しかねる。まず例文を見てみよう。

（2）有一次那猫又跳到床上去了，爸爸抓起鸡毛掸刚要打，冷不防妈妈走进来大喝一声：“你要干什么？”　(4-8-99)

（3）她和她的舞伴挤到门口，看见一辆停在雨泊中的三轮车，跑过去，他托起她，纵身跳上去。“北京路口！”他对裹在雨衣里的车夫说。(4-12-102)

例(3)はディスコが終わり、２人が外に出ると雨が降っている。彼女と彼は雨の中で客待ちをしている輪タクを見つけ、会場から輪タクの所まで走っていく。そして、彼は彼女が輪タクにスマートに飛び乗るために手でささえてやる。筆者は２つある動補連語のうちの前者の移動表現“跑过去”の“跑”をありさま移動動詞、“过”を位置移動動詞、“去”を趨向動詞と分析する。２人は雨が降っていたので、“跑”という動作によって会場から輪タクの所まで来る。会場から輪タクまで一定の距離があるので“过”を使い、彼らのいた会場に視点をあてて、彼らが輪タクの所まで走って行ったので“去”を用いている。動作は“跑”だけであるが、“过去”という２つの移動動詞が異なる角度からありさま移動の“跑”を補い、「到着」という出来事を完結させている。後者の移動表現“跳上去”は“跳”がありさま動詞、“上”が位置移動動詞、“去”が趨向動詞である。彼女は彼に手をささえられて、“跳”というありさま動作をすることにより輪タクに乗る。動作が地面から上の方向に位置移動するので“上”を使い、手をささえている彼の所から彼女が離れるので、“去”という視点のある趨向動詞を用いている。これも動作としては、ありさまを表す動作“跳”だけであるが、“上去”という2つの移動を表す動詞によって異なる角度からありさまを表す“跳”を補い、「到着」という出来事を完結させている。

既述の結果補語・程度補語・可能補語は趨向補語と同様に異なる角度から動詞や形容詞を意味的に補い、動作や状態などを完結させている。ところが、数量補語は何人かの研究者が指摘するように、補語となっている動詞や形容詞より、名詞に意味が近い。房氏もこの点を指摘して数量連語は補語ではなく客語だと述べている。房氏の説に従えば動詞の後続成分である名詞や名詞連語はすべて客語ということになる。筆者もこの説を支持する。但し、筆者が房氏の説を支持するのは房氏の言うように補語が動作の結果・程度・様態および性質・

状態の程度や様態を補充説明するので、動詞や形容詞およびそれらで作る連語でなければならず、名詞や名詞連語では動作を補充説明することができないから、名詞や名詞連語を客語だと言うのではない。筆者は趨向補語や他の補語を既述の分析から、動作の始まりから終わりまで、および程度や様態などを意味的に表す動作内部のカテゴリーだと分析する。即ち、補語は動作を補って動作を完結させる意味的なカテゴリーである。それに対し、客語は動詞と共に用いられて出来事を表す。それゆえ、一般に言う数量連語は補語ではなく房氏の言うように客語なのである。たとえば、次の談話によって、それを説明してみよう。

（4）A_1 你昨天晚上看电视了吗？

B_1 我看了。

A_2 你看了几个小时的电视？

B_2 我看了一个小时。

例(4) B_2の“看了一个小时”は“看了一个小时的电视”とも言え、“电视”が文中に現れても現れなくても事柄という出来事を表していることに変わりない。“看了一个小时”が事柄を表しているので、動詞“看”の後に動作の実現を表す“了”を用いることができると言える。“一个小时”がもし補語と言うのであれば、補語は動作の始まりから終わりまでを意味的に表すので、動詞と補語の結び付きは緊密であり、動詞の後にアスペクト助詞“了”を用いることができない。アスペクト助詞は動作の始まりから終わりまでを意味的なカテゴリーの中で表すのではなく、動作のまるごとか断片かを機能的なカテゴリーの中で表すからであり、共に動詞や形容詞の後に用いられても、一方は動作内部の意味のカテゴリーであり、一方は動作内部の機能のカテゴリーであり、まったく異なると言える。但し、どちらも動作内部の時間を表すという観点から見れば、同じカテゴリーの中に入ってしまう。それゆえ、この両者は動作を完結するための意味と機能の異なるカテゴリーの中に用いられるが、それぞれが

別々に時間のカテゴリーの中に入ると解釈するほうがより適当であり、補語とアスペクトの異なる関係がより明確になると言える。

2．“走回来了”と“走了回来”について

李・程両氏の説によれば、“走回来了”と“走了回来”はともに動補連語であり、両氏は次のような例文を挙げている[11]。

（5）他走进去了。(《李・程》p. 326)

（6）狗从狗洞爬了进去。(《李・程》p. 330)

筆者の調査によれば、“走回来了”と“走了回来”の基本的な意味は同じである。使用頻度から言えば、“走了回来”グループのほうが“走回来了”グループよりもはるかに多い。それではいったいどこにその違いがあるのであろうか。まず例文を若干見てみよう。

（7）团长掏出枪来，从后面，一枪就把他打下来了。 (12-2-100)

（8）信寄出去了。我很快便把它忘却。 (3-8-97)

（9）大家尽量装出一派嘻皮笑脸的样子，搬了起来。 (6-3-97)

(10) 男女老少围了过来。 (6-6-96)

例(7)(8)の“打下来了”と“寄出去了”は“走回来了”グループであり、例(9)(10)の“搬了起来”と“围了过来”は“走了回来”のグループである。これらのグループはいずれも文末に用いられているので、条件が同じだと言える。文構造の複雑な例(7)と(9)、文構造の簡単な例(8)と(10)を比較しても“了”の位置が異なるだけで、その違いがはっきりとは見えてこない。“了”はどちらのグループにも用いることができるし、どちらに用いても基本的な文意は変わらない。次の文で、それを証明することができる。

(11) 男女旅客们涌过来。 (4-10-99)

例(11)を文構造の簡単な例(8)(10)と比較してみよう。例(8)は趨向動詞“去”の後に“了”が用いられ、例(10)はありさま動詞“围”の後に“了”が用いられている。便宜上、前者を文末の“了”、後者を文中の“了”と仮称しよう。例(8)(10)から“了”を除けば、例(11)とまったく同じ文構造になる。逆もまた信なりで、例(11)には文末の“了”を用いることもできるし、文中の“了”を用いることもできる。

(11)' 男女旅客们涌过来了。

(11)" 男女旅客们涌了过来。

例(11)(11)'(11)"から意味的な違いは見出せない。しかし、例(11)には“了”がなく、例(11)'(11)"には“了”があり、両者の“了”の位置が異なることは誰にでも明白である。一般言語学の立場であれ機能主義言語学の立場であれ、違いがある以上、何らかの違いがあるはずである。今少し、その違いについて分析してみよう。この3例の違いは“了”の有無と“了”の位置の違いに絞られる。この3例の一般的な訳文「乗客が集まってきた」は、中国語では3通りの表現方法がある。この3通りの表現方法はどこにその違いがあるのかがポイントになる。この3例は話者の話しているモメントを中心に時間の観点からみれば、いずれも過去を表している。例(11)は場面が過去を表し、例(11)'はアスペクト助詞の“了”が動作の実現を表し、例(11)"は文末の語気助詞“了”が出来事の発生を表すことによって、時間と結び付き、いずれも過去の出来事を表すことになる。“了”の位置の違いについては、かつて筆者は2つの“了”は表現する段階と内容によって、その違いが異なるが、基本的な文意は同じであるという主旨で発表したことがある。その時、談話言語学理論の1つ連貫性問答法を用いて、次の談話で理論的にその違いを明らかにした[12)]。

(12) A_1 你昨天晚上干什么了？

B_1 我看书了。

A_2 你看了什么书？

B_2 我看了汉语书。

中国語ばかりでなく、日本語でも英語でもすべての言語において、人はまず相手に出来事を尋ねる。ここで言う出来事とはA_1の“干什么”とB_1の“看书”である。次に、動詞“看”が旧情報となると、“看”に関するより具体的な内容を尋ねる。ここで言う“看”に関するより具体的な内容とはA_2の“看了什么书”とB_2の“看了汉语书”である。筆者は談話言語学の理論に基づき、最初に現れる文末の“了”を“了$_1$”と名付け、その後に現れる文中の“了”を“了$_2$”と名付ける。この呼称は中国語の世界で一般に言われている“了$_1$”と“了$_2$”とは順序が逆である。一般に言われている“了$_1$”と“了$_2$”とは次の文において、文中の“了”が先に現れるので“了$_1$”とし、文末の“了”が後で現れるので“了$_2$”としただけであり、言語学的な根拠にやや欠けるきらいがある。但し、文法学の発展段階からみれば、一般に言われている“了$_1$”と“了$_2$”の説は、当時にあって、２つの“了”を明確に分類した点で高く評価できる。

(13) 我看了书了。

例(12)のB_1の段階で“我看了书。”と答えれば非文となる。なぜならA_1は出来事“干什么”について尋ねているのだから、その答えは出来事“看书”を表す“我看书了。”であり、“我看了书。”ではない。“看”が旧情報となってから、“看”についての、より具体的な内容を答える“我看了书。”では、文構造の現れる段階が異なるから非文となる。“我看了书。”はその前提に“看”がすでに旧情報として文中に現れていれば、文として成立する。それが次の談話の中のB_2である[13)]。

(14) A_1 你为什么常常去图书馆？

B_1 因为那里有阅览室。阅览室里有很多书、杂志和报纸。

A_2 昨天下课以后，你在那里看了什么？

B_2 我看了书。

A_3 你看了什么书？

B_3 我看了汉语书。

例(11)'(11)"と例(12) B_1、例(14) B_2は客語があるかないかだけの違いであり、例(11)'の文末の“了”は筆者の言う“了$_1$”であり、例(11)"の文中の“了”は筆者の言う“了$_2$”である。即ち、例(11)'と(11)"とでは“了”の使われている位置が違うことにより、文構造が異なっていると言える。例(11)'の“涌过来了”は「動詞“涌”＋補語“过来”」の動補連語と語気助詞“了”から成り、例(11)"の“涌了过来”は動詞“涌”とアスペクト助詞“了”と動補連語“过来”から成る文である。文型から言えば、“走回来了”グループに属す例(11)'は一般文型中の主述文であり、“走了回来”グループに属す例(11)"は特殊文型中の連動文である。例(11)"の文中の“了”はアスペクト助詞であり、その前の動詞の動作の形を表し、機能としては動作の実現を表している。次の例文のように、動詞の後に“着”が用いられている例文があることにより[14]、“走了回来”のグループが連動文である事をより分かり易く証明できる。それは動詞の後の“了”と“着”が同じアスペクト助詞だからである。

(15) 主任不允，大款不依，高声争执，厮扭着出去了。 (7-9-111)

例(15)(11)"の“厮扭／涌”はありさま動詞であり、動作のありさまを表し、動補連語“出去／过来”のうちの“出／过”は位置の移動を表し、“去／来”は趨向移動を表している。次の文で動補連語“出去／过来”が位置と視点からの移動を表していることによっても、例(15)の“出去”と例(11)"の“过来”が動補連語として用いられていることが明白なので、例(15)と(11)"が特殊文

型中の連動文であることを証明できる。

(16) 六个人都依次出去了，他起身打开窗，让清风过滤一下污染的空气。(3-10-94)

(17) 过来一位带袖标的铁路工作人员，皮鞋踏得木地板嘎嘎地响。(4-10-98)

例(16)(17)の“出去”と“过来”は動補連語であり、それぞれが移動体の位置移動“出／过”と趨向移動“去／来”を表し、述語として用いられている。

本節の最後に“走回来了”グループと“走了回来”グループの現れる言語環境と両グループの現れる順序について、若干の例文を挙げて検討してみよう。

(18) 没想到，我这位朋友的预言不久就应验了。有一天下午，我也搬了出去，因为，另有一位年轻英俊的男子搬了出来。(10-7-87)

(19) 接着，大雁队长又“嘎啦”的发了声口令，他自己就首先飞上天去，全体大雁就按着次序一个一个的跟着他飞了上去。两个小燕子也跟在后面飞了上去。(13-9)

例(18)では文末の“了”が先に現れ、文中の“了”が後で現れている。例(19)では“飞上天去”の“飞”が旧情報となっているので、次に“飞了上去”が２回使われている。これらの言語事実から２つの“了”の現れる順序はやはり文末の“了”、筆者の言う出来事と共に用いられる“了$_1$”が先に現れ、動詞が旧情報になってから、動詞のより具体的な内容を尋ねる“了$_2$”が現れると言える。但し、例(11)の“涌过来”の“涌”は例(12)の“我看书了”の“看”のように動詞が裸の動詞ではなく、“过来”を伴っているので、例(11)'が文頭に現れることもある[15]。

３．“走路回来”について

動補連語“走回来”に客語が入ってくると、文構造がさらに複雑になってく

る。客語が入ると、文は３つの文構造に分かれる[16]。その１つはありさま動詞の後に客語を用いる場合、２つ目は位置移動動詞の後に客語を用いる場合、最後に趨向動詞の後に客語を用いる場合である。まず、ありさま動詞の後に客語が用いられている例文からみていこう。

(20) 妻出于护士职业的敏感，翻身起来。 (5-11-96)

(21) 高中毕业时，有一天他约我出来，想让我做他的女友。由于羞涩，我没马上答应。 (7-1-111)

例(20)の“翻身起来”は連動文であり、「“翻身”＋“起来”」であって、動補連語“翻起来”に客語をとる構造ではない。例(21)の“约我出来”は兼語文「“约我”＋“(我)出来”」であって、動補連語“约出来”に客語をとる構造ではない。例(20)(21)の“起来”と“出来”は、これだけでも次の例文のように移動を表せるので、例(20)(21)の“翻身起来”や“约我出来”が動補連語に客語をとる構造でないことがより明らかである。

(22) 次晨起来，他忽然想起了昨晚没看的稿子。 (6-7-96)

(23) 尚义出来，奇怪地看着这位陌生人，“你是……” (4-12-99)

例(22)(23)のように“起来”や“出来”だけでも移動を表せる。これらはいずれも主体の移動を表している。“起”と“出”は位置移動動詞、“来”は趨向動詞であり、“来”が“起”と“出”の補語となっている動補連語である。“起来”と“出来”はありさま動詞がなくても移動を表せることが、例(22)(23)の例文から証明できると言える。本構造“走路回来”が動補連語に客語をとる構造でないことを証明するために、もう少し例文を見てみよう。

(24) 蒋毛头抬头一望，见父亲跟兄弟摇着船过来了，船上满是生姜。 (6-9-97)

(25) 母子们又快乐又兴奋，扑着翅膀跳起来了。 (13-13)

(26) 第二天，孤儿吃了一点东西，背上鱼网出去了。 (14-601)

例(24)の“摇着船过来了”は文意から兼語文「“摇着船”＋“(船)过来”」であって、“摇过来”に客語の“船”をとる構造ではない。“摇着船过来了”の“着”はアスペクト助詞なので、動詞“摇”の後ろに用いられていると分析できる。しかも客語“船”まであるのだから、“摇着船”が「動詞＋“着”＋客語」から成っていることは疑う余地もない。また、“过来”は例(17)のように、ありさま動詞がなくても移動を表せるのだから、“摇着船”と“(船)过来”が連用されていると分析する方がより妥当であると言える。例(25)の“扑着翅膀跳起来”は「“扑着翅膀”＋“跳起来”」であることは、“起来”の前に“跳”があることにより、動補連語に客語をとる構造ではなく、「“扑着翅膀”＋“跳起来”」からなる連動文であることがより明白である。例(26)の“背上鱼网出去”が「“背上鱼网”＋“出去”」構造であることは文意から明白である。また、“上”と“出”はともに位置移動動詞なので、意味と機能が異なれば別だが[17]、一般には同グループの単語は連用できないという中国語の原則に違反するという理由により、また、“背上出去”が言えないことからも明白である。

“走路回来”のグループは文意によって例(20)(25)のような連動文と例(21)(24)のような兼語文の２類に分けられる。なお、例(24)から客語の“船”をとれば、文構造は例(15)と同じになる。既述のように例(15)のグループ(“走了回来”“撕扭着出去”)は連動文なので、本類の構造の分析「動詞＋アスペクト助詞“了／着”＋動詞連語」と基本的に一致する。

4．“走回宿舍来了”について

“走回宿舍来了”のグループは複合趨向補語が客語を伴う構造と一般の専門書や教科書では述べている[18]。この説が正しいかどうか、若干の例文を分析することにより、この説の是非を再検討してみよう。

「動詞＋複合趨向補語」が場所客語を伴うと、場所客語は趨向動詞の前に

用いなければならない、という説が正しければ、これで問題がなくなる。しかし、筆者はこの説にいささか疑問を抱いている。いわゆる一般に言われている結果補語・程度補語・趨向補語・可能補語は次のように動詞と補語の間に客語やアスペクト助詞“了”をとれないからである。次の例文を見てみよう。

(27) 他碰倒了一个花瓶。(結果補語　《李・程》p. 290)
(28) 他写信写得很快。(程度補語　《李・程》p. 309)
(29) 他给我们送过来了几个苹果。(趨向補語　《李・程》p. 330)
(30) 我们听得懂你说的话。(可能補語　《李・程》p. 337)

例(27)の“碰倒”、例(28)の“写得很快”、例(29)の“送过来”、例(30)の“听得懂”の各構造には構造助詞“得”の有無の別はあるが、「動詞＋補語」によって、それぞれの動作を完結させている。補語は動作の始まりから終わりまで、または性質・状態の程度や様態などを意味的に補充して、これらの動作を完結させる意味的なカテゴリーである。それゆえ、動詞と補語は密接に結び付き、上記の例文中のどの動補連語であっても客語またはアスペクト助詞“了”を動詞と補語の間に用いることができない。ところが一般の専門書や教科書では、ある一部の趨向動詞だけは、次のように動詞と補語の間に客語や“了”を用いることができると説明している[19]。まず、このような指摘のある動補連語と客語の関係からみていこう。

(31) 他上楼来了。(《李・程》p. 324)
(32) 他想从外边搬一把椅子来。(《李・程》p. 324)
(33) 他走进礼堂来了。(《李・程》p. 329)
(34) 他递过一瓶汽水来。(《李・程》p. 329)

かつて、小川文昭氏が“去买东西”と“买东西去”について取りあげられたことがある[20]。筆者もかつて、大東文化会館で発表したさい劉勲寧氏からの質

問に対して、前者は目的表現であり、後者はありさま表現で、“买东西去”の“去”は補語ではないと答えたことがある[21]。補語は動作の始まりから終わりまでを動作の意味的なカテゴリーとして、動作を完結させる役割を果たしているが、上記の例文中の“来／去”はいずれもその役割を果たしていないからである。次の談話によって、その関係を明らかにしてみよう。

(35) A_1 你去哪里？
B_1 我去池袋。
A_2 你去干什么？　　A'_2 你干什么去？
B_2 我去买东西。　　B'_2 我买东西去。

例(35) A_2の“去干什么”の“去”は動詞と言われ、A'_2“干什么去”の“去”は一般に補語と言われている。しかし、いずれもB_1の“我去池袋。”によって、“去”が旧情報となり、それについて、A_2では目的を尋ね、A'_2では事柄を尋ねているので、どちらの“去”も動詞であり、どちらも連動文である。A'_2の“你干什么去？”の“干”は動詞が何であるのか特定されていない。動詞が特定されていないうちに、補語が動詞より先に文中に現れるというのは非常に奇妙な説である。既述のように補語は動詞を補って動作を意味的に完結させるカテゴリーなので、まず具体的な動詞が先に現れなければならない。A'_2の“你干什么去？”の“去”を補語とする説はこの原則に反しているので、補語とは認めにくい。また、すでに指摘したように補語はあくまでも動詞を補って動作を完結させる意味的なカテゴリーであり、“买东西”のように事柄を表す表現ではない。即ち、動詞と補語は補語が動詞を補って、動作を意味的に完結させるのに対し、動詞と客語は両者で事柄を表すのが任務である。この本質的な違いから動補連語と動客連語はまったく別なカテゴリーに属していると言え、補語と客語の間には一線がはっきりと画されている。次にアスペクト助詞の“了”がさらに、この構造に入っている場合も分析してみよう。これも一般の専門書は“来／去”を補語と言っている。

(36) 他买了三公斤梨来。(《李・程》p. 324)

(37) 他给小王带了一封信去。(《樊・刘・田》p. 190)

既述のように“买了三公斤梨”は事柄を表しているので、“三公斤梨”は客語であって補語ではない。動詞と補語は意味的に密接な結び付きがあるので、いかなる場合もアスペクト助詞をその間に用いることができない。その間にアスペクト助詞を用いれば、それは動詞と補語の関係ではなく、例(9)(10)のように連動文となる。これらの文も次のように表現すれば動補連語と言える。

(36)' 他买来了三公斤梨。

(37)' 他给小王带去了一封信。

例(36)'(37)'はありさま動詞“买／带”と趨向動詞“来／去”により客体“三公斤梨”“一封信”の移動を表している。“买来”と“带去”は、この文の中では“买了来三公斤”や“带了去一封信”のように、“买”と“来”、“带”と“去”の間にアスペクト助詞の“了”を入れることができない。ありさま動詞と趨向動詞からなる両者は以上のことから、例(36)(37)は連動文であり、例(36)'(37)'は主述客語文であり、文型が異なると言える。なお、例(36)(37)は筆者の言うありさま表現である。また“来”と“去”は次のように単独でも文中に使うことができるので、例(36)(37)が連動文と言える証左の1つとなる。

(38) 同船有认识他的便与他打招呼，问他从哪里来？ (6-9-96)

次に本節の問題点である「動詞＋複合趨向補語」に客語が用いられていると一般に言われている文を分析してみよう。この種の文は例(29)の“送过来了几个苹果”のグループと、例(34)の“递过一瓶汽水来”のグループに大別される。前者は客語が趨向動詞の後にある場合であり、後者は客語が趨向動詞の前にある場合である。なお、“了”の有無や位置の違いによって分ければ、本構造は

より細分化される。また、客語が場所客語の場合は例(33)の“走进礼堂来了”のように、場所客語を必ず趨向動詞の前に用いなければならないというのは言語事実である。この２類の表現方法は一般に「動詞＋複合趨向補語」と客語の位置関係の問題であり、場所客語以外の客語は「動詞＋複合趨向補語」の中で、この2つの位置に用いられるということが認められている。しかし筆者はこれも一方は主述客語文であり、一方は連動文であるとみなしている。次に若干の例文を見ていこう。

(39) 三郎的眼睛一动也不敢动，只见从放蚯蚓的小盆子里跳出来一个小姑娘，眨眼之间变成了一个大姑娘。 (14-431)

(40) 可是，有人匿名控告李厂长，联合专案组却飞快地杀进厂来。(3-11-86)

(41) 胖嫂挤进门去，神秘地凑着张大妈的耳朵说:“你家可还有肥皂？” (4-9-99)

「動詞＋複合趨向動詞」と客語で作る２つの表現方法のうち、前者である例(29)の“送过来了几个苹果”グループの表現方法はきわめてまれであり、後者である例(34)の“递过一瓶汽水来”グループの表現方法の方が圧倒的に多い。例(39)の“跳出来一个小姑娘”は前者に属する。例(29)も(39)も客体“几个苹果／一个小姑娘”の移動であり、ありさま動詞と位置移動動詞と趨向動詞とは緊密に結び付き、位置移動動詞と趨向動詞がありさま動詞を補って動作や行為を完結させているので動補連語と言える。例(40)の“杀进厂来”と例(41)の“挤进门去”は後者に属する。例(34)は客体“一瓶汽水”の移動であり、例(33)(40)(41)は主体“他／联合专案组／胖嫂”の移動である。筆者は文意と文構造からこれらを連動文(例33、40、41)と兼語文(例34)に分類する。例(33)は「“走进礼堂”＋“来”」、例(34)は「“递过一瓶汽水”＋“(一瓶汽水)来”」、例(40)は「“杀进厂”＋“来”」、例(41)「“挤进门”＋“去”」であり、これらの例文中の動客連語は事柄を表し、趨向動詞“来”は出現を表し、“去”は消失を表している。次の例文によって筆者のこの説を立証してみよう。

(42) 到年底了，“小花猫”摇不出声音来了。 (3-2-96)

(43) 上帝呀，你钻进我的脑子里去过吗！ (3-9-97)

(44) 可是，他刚逮住一只，放进草帽里头笼起来，就听十步开外的山坡上，又有一只蝈蝈叫，叫得比先一个更加清脆好听。 (14-683)

例(42)の“摇不出声音来了”は可能補語“摇不出”と客語“声音”と趨向動詞“来”から成り立っている。「可能補語＋客語」“摇不出声音”で１つの事柄を表し、“来”は出現を表している。もしも仮に“摇不出声音来”の“声音来”を補語とみなすのであれば、可能補語“摇不出”の“不出”が“声音来”を補語としていることになる。補語“不出”がさらに補語“声音来”をとるというのは奇妙な理屈である。動詞または形容詞が補語をとり動作や状態などを完結させるのであり、補語がさらに補語をとることはできない。これはやはり“摇不出声音”が事柄を表し、“来”が出現を表すと分析する方が妥当である。例(43)も「“钻进我的脑子里” ＋“去过”」であると筆者は分析している。これはアスペクト助詞“过”が“去”の後にあるので、“去”が補語ではなく動詞であることは論をまたない。例(44)は「“放进草帽里头”＋“笼起来”」である。これらはどちらにもありさま動詞“放／笼”があるので、このようにしか分析できない。この３例から筆者はこのグループを連動文または兼語文だと言っている。なお、このグループにはまだ趨向動詞をどのように扱うのかという問題が次のような文構造の例文の中に存在する。

(45) 人们都很自觉，谁来晚了，便主动掏出钱来认罚；…… (3-6-92)

(46) 他叹口气：“一路上咋光查我的票？”说着把手伸进衣袋里去摸。 (4-10-98)

例(45)の“掏出钱来”は兼語式であり、それにさらに“认罚”が加わった兼語文である。例(46)の“伸进衣袋里去摸”は連動文である。これらの趨向動詞“来／去”は意味を有さないという指摘がかつてあった[22]。この説は文中に移

動体があるかどうかにより、一律に意味を有さないとは言えない。たとえば、“掏出钱来认罚”の“来”は“钱”の出現を表し、“伸进衣袋里去摸”の“去”は“手”の消失を表しているので、筆者の分析によればやはり趨向動詞として移動体の出現と消失を表しているということが、２例の“来”と“去”から言える。

５．おわりに

“走回来”を上述のように分析すると、次のような結論が得られる。

ⅰ．移動を表す“走回来”はそれぞれの単語の表す意味特徴により、次の３類に分類できる（表１）。“走”はありさまを表すのでありさま動詞、“回”は位置の移動を表すので位置移動動詞、“来”は趨向移動を表すので、これまで通り趨向動詞とする。３類の移動動詞とその組合せにより、移動体の移動表現は７類に分けられる（表２）。

ⅱ．“走回来”の“回来”は“走”の補語である。“回来”は“走”という動作を異なる２つの角度から述べ、動作を完結させているだけで、移動体は“走”という動作しか行っていないからである。

ⅲ．“走回来了”と“走了回来”は、意味としては同じだが、構造と現れる順序が異なる。“走回来了”は動補連語であり、“走了回来”は「動詞＋“了”＋動詞連語」からなる構造であり、連動文として扱われる。“走回来了”は前提条件がなくてもよいが、一般的に“走了回来”は文末の“了”や“走”がこの構造の現れる前に旧情報として現れている。それゆえ、一般的には“走回来了”のグループが先に現れ、“走了回来”のグループが後で現れる。但し、この２つの構造は動詞が裸の動詞ではないので、第一発話に現れることもある。

ⅳ．“走路回来”は動補連語に客語が用いられている構造ではなく、「動客連語＋動補連語」の構造であり、連動文または兼語文の中に現れる。

ⅴ．“走回宿舎来了”も動補連語に場所を表す客語が用いられる構造ではなく、「動補連語＋場所客語＋動詞」の構造であり、連動文として扱われる。

vi. 客語が物名詞だと動補連語は“送过来了几个苹果”と“递过一瓶汽水来”の２グループの表現方法に分かれると言われているが、これは前者が「動補連語＋客語」であり、後者は「動補連語＋客語＋動詞」である。前者は主述客語文であり、後者は連動文または兼語文に分かれ、両者は異なる文型に属する。

〈注〉

1）この説明は《房》p. 239にあり。『李』p. 159、『相』p. 252、《刘》p. 1などでは“走回来”の“回来”の類を複合趨向補語と言っている。

2）「高２」p. 13では移動動詞を「ありさま移動、位置移動、趨向移動」の３類に分類している。

3）「高２」p. 11では移動体を「人、人の部分、目に見える物、目に見えない物」の４類に分け、「人」は生命体を代表するとしている。

4）「高２」p. 27では位置移動動詞として14の動詞を挙げているが、今回の分析では次の16の動詞を挙げる。

上、下、进、出、回、过、起、开、到、在、近、入、往、向、离、归

一般にはこの類の動詞として、よく次の８つの単語が挙げられている。

上、下、进、出、回、过、起、开

5）「高２」p. 11では移動体を主体、客体、第３者の３類に分けている。

<u>一位看上去挺漂亮的少妇</u>，迈着轻盈的步子从丈夫们站成的通道中走过。（主体）

老七说着，从玻璃窗口把<u>圆珠笔</u>递到小胡的手上。（客体）

突然从新宿站打<u>电话</u>来，真叫人大吃一惊。（第三者）

6）「高２」p. 12～15に移動を表す例文と説明あり。同、p. 24では移動を表す文を７類に分けている。それに基づいて作成したのが［表２］である。

7）《房》p. 239にこの説明あり。

8）《李・程》p. 287～288にこの５種類の補語が挙げられている。

9）《房》p. 248にこの説あり。

10）《房》p. 239～240にこの説あり。

11）《房》p. 326と327に、この２例あり。

12）「高１」p. 31に、この談話と説明あり。

13）「高１」p. 31に、この談話と説明あり。

14）アスペクト助詞の“了”や“着”は動詞の後に用いられ、動作の機能的なカテゴリーを表すので、その前の単語は一般的には動詞である。その後の動詞などはやはり動詞や動補連語としての意味を表す。

15）“涌了过来”は裸の動詞ではないので、第1発話にこの構造が現れれば談話に展開のあったことが前提となっている、と判断できる。このことについては「“我看了书”は非文と言えるだろうか」（p. 20～38）で詳述している。

16）《房》p. 251には、“了”にスポットをあてた３つの文構造とその違いが説明されている。この観点は達見ではあるが筆者の考えと異なる。

17）位置移動動詞やありさま動詞は次のように同時に使われることもあるが、これらの文中では、それぞれの意味や機能が異なっている。

他们已经回到家了。（“回”も“到”も位置移動動詞）

他把那本书拿走了。（“拿”も“走”もありさま動詞）

18）『李』p. 160に、この説と次の例文あり。

他们一起走过书店去了。

19）《李・程》p. 323～325と329～330にこの説と例文あり。

20）「“去＋ＶＰ”と“ＶＰ＋去”の違いについて」の中で、２つの“去”について探求している。

21）大東文化会館で「高３」を口頭発表した際に、劉勲寧氏から出された質問である。

22）『中国語常用語句例解』p. 371に次の説明と例文あり。

“来”用在动词结构之后，有时并不表示趋向，它的作用只是引出动作或行为的目的。例如：

（1）我们要开一个晚会来欢迎新同学。

（2）我们想通过座谈会来交流经验。

“来”には趨向を表す用法と結果・状態を表す用法があり、結果と状態を表す場合は“来”の意味は虚化されるが、概念としては積極性を表す意味が残るので完全に虚化されたわけではない。

【資料と例文】

1．水仙(1984)　水上勉著、柯森耀译注、上海译文出版社 1984. 10

2．菜穗子(1984)　崛辰雄著、吴大有译注、上海译文出版社 1984.12

3．ショートショート(1988)　程枫等著、人民中国杂志社 1988.1～12

4．ショートショート(1989)　李玲等著、人民中国杂志社 1989.1～12

5．ショートショート(1990)　李敬寅等著、人民中国杂志社 1990.1～12

6．ショートショート(1991)　杨华敏等著、人民中国杂志社 1991.1～12

7．ショートショート(1993)　赵冬等著、人民中国杂志社 1993.1～12

8．ショートショート(1994)　凌鼎年等著、人民中国杂志社 1994.1～12

9．ショートショート(1995)　航鹰等著、人民中国杂志社 1995.1～12

10. ショートショート(1996)　关继尧等著、人民中国杂志社 1996.1～12

11. ショートショート(1997)　林如求等著、人民中国杂志社 1997.1～12

12. 中国語学講読シリーズ①～⑥(1991)、刘家林等著、柯森耀译、外文出版社

13. 中国当代优秀童话选上、下(1991)、柯玉生编、新雷出版社、1991.11

14. 中国精怪故事(1995)、车锡伦、孙叔瀛编、上海文艺出版社、1995.1

15. 中国語の環・文芸副刊第40号～48号、敖友余等著、竹島毅等整理、1997.6～1999.6

【主要参考文献】

1．相原茂・石田智子・戸沼市子(1996)『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書』，同学社（『相』）

2．小川文昭(1991)「“去＋ＶＰ”と“ＶＰ＋去”の違いについて」日本中国語学会第41回全国大会資料（「小」）
3．金昌吉著(1996)《汉语介词和介词短语》，南开大学出版社（『金』）
4．輿水優編（1981）『中国語常用語句例解』，東京外国語大学語学教育研究協議会，東京外国語大学（『輿』）
5．高橋君平（1983）「連語動詞と方向（趨向）助詞」，『中国語学』230，日本中国語学会（「君」）
6．高橋弥守彦（1999）「“我看了书”は非文と言えるだろうか」，『日中言語対照研究論集』，白帝社（「高１」）
7．高橋弥守彦（2000a）「“从”＋場所語の“从”の用法について」，中日対訳研究会4月例会発表資料，大東文化会館（「高２」）
8．高橋弥守彦（2000b）「“上”＋場所語における“上”の日本語訳について」，『日中言語対照研究論集』第２号，白帝社（「高３」）
9．樊平、刘希明、田善继编(1988)《语法篇》，北京语言学院出版社(《樊・刘・田》)
10．房玉清(1992)《实用汉语语法》，北京语言学院出版社(《房》)
11．万清华(1995)〈关于“去”与“来”动词的归类〉，『中国語学』242，日本中国語学会（〈万〉）
12．李德津、程美珍(1991)《实用汉语语法》，华语教学出版社(《李・程》)
13．李臨定著，宮田一郎訳(1993)『中国語文法概論』，光生館（『李』）
14．刘月华(1989)〈关于趋向补语“来”、“去”的几个问题〉，《汉语语法论集》，现代出版社(〈刘〉)
15．刘月华(1998)《趋向补语通释》，北京语言文化大学出版社(《刘》)
16．吕叔湘主编(1999)《现代汉语八百词增订本》，商务印书馆(《吕》)
17．盧涛（1995）「文末の“去”の機能について」，『中国語学』242，日本中国語学会（「盧」）